

忘れられない思い出に

春期留学プログラム参加者体験記

海外の語学センターで行われた春期留学プログラム(7大学に129人)参加者の中から、7人に体験記を寄せてもらった。語学の学習ばかりでなく、貴重な異文化をハダで感じ、現地の人々と交流したそれぞれの姿を紹介しよう。



なにげない「日常」が心にのこる

下川原 憲一(経済)

英語コース

サスケハナ大学<アメリカ>

ペンシルベニア州サスケハナに50日間ホームステイしました。大自然に囲まれ、感動に包まれた日々は予想以上に早く経過し、心の奥底に現地で出会った貴重な体験とたくさんの友人、そしてもう一つの家族の笑顔が残っています。

休日にはホストファミリーと食事をしたり買い物に行ったり、スポーツを楽しんだり……。そんな小さな日常が、忘れられない思い出になりました。彼らは異文化体験も豊富で、日本に大きな関心を寄せており、互いの文化を共存し合えたことに、大きな誇りと喜びを感じます。

ニューヨークやワシントンDCなどの大都市に行く機会もありました。プログラムを通じて、英語力の向上はもちろんのこと、異国の地で価値観の異なった多くの人達と交流する素晴らしさやコミュニケーション能力の重要性を改めて実感しただけでなく、自分自身を振り返る機会も得ることが出来ました。この貴重な経験を生かして、未来に向けて新たな自分への挑戦を続けたいと思います。



気さくでフレンドリーな人々

佐藤 英次(ネット情報)

英語コース

イリノイ大学

アーバ・シャンペイン校 <アメリカ>

アメリカ留学は、良い意味で予想を裏切るほど、充実した貴重な1カ月間でした。

研修は座学だけにとどまらず、少人数でのグループワークや 在学生へのインタビューなども交え、すぐに学んだことを生かせる構成でした。Language Exchangeというイリノ

イ大学の学生と交流を図るイベントも提供して頂き、数多くの学生と知り合うことが出来ました。

最も印象的だったことは、気さくで親切なアメリカの人々とのふれあいでした。彼らはたとえ相手が見知らぬ人でも困っていれば声をかけてくれ、レストランで隣り同士になれば話しかけてくれます。バスで親切にしてもらったら運転手さんに感謝の気持ちを表します。生活の中にはたくさんの思いやりが溢れています。

今回の留学では、語学力が向上しただけでなく、そのような環境が私の人間性を豊かにしてくれ、感謝の心が生活に浸透した素晴らしい文化を、私に教えてくれたように思います。



アジア系留学生のクラスで学ぶ

八木 郁矢(経営)

英語コース

シドニー工科大学

<オーストラリア>

このプログラムに参加して本当に貴重な経験ができました。5週間という短い期間でしたが、他国の人々とコミュニケーションをとることの重要性やその喜びを味わうことが出来ました。

授業は他国の学生と一緒に、私のクラスは韓国、タイ、中国、UAE、台湾など主にアジア系の人たちで構成されており、国籍や年齢が違うだけでなく、英語を学ぶ目的もさまざまでした。当然、共通語は英語であり、学校では英語を話さざるを得ない環境にありました。時間がたつにつれ、次第に会話が成立するようになり、英語を話すことが楽しくなっていました。

授業終了後には、ほぼ毎日のようにクラスで仲良くなった留学生と一緒にランチを食べ、休みの日は一緒に買い物に行くなど、本当に充実した毎日でした。

この研修に参加して「英語を自在に使えるようになれば、自分の夢や目標の視界が大幅に広がる」と改めて実感。このことが私にとってとても大きな収穫でした。



ビジネスイングリッシュで達成感

岩澤 瑛里子(文)

英語コース

ワイカト大学<ニュージーランド>

>

私たちが通っていたワイカト大学のLanguage Instituteは、ハミルトンにあり、世界中から英語を学びにきています。午前中は General Englishのコースでニュージーランド文化だけでなく、いろいろな文化を学ぶことが出来ました。午後は専大生用につくられたBusiness Englishのクラスで、就職の仕方、マネージメント、企業訪問、正しいレポートの書き方、広告、パワーポイントなどを学び、プレゼンテーションをしました。授業は大変でしたが、とてもやりがいを感じ、終えた時は達成感に満たされました。

ハミルトンは小さな街で、交通手段はバスか車。高い建物がなく、民家は平屋建てが

ほとんどです。窓は開・っ放しで風通しのよいつくりになっています。食事はさまざまな国の料理があり、寿司も人気でした。ニュージーランド人は温かくて親切で、ホストファミリーもとても優しく、夕食後はいつもみんなでおしゃべりをして楽しかったです。これらの経験と出会った人々を忘れられないものとなりました。



異文化に触れ日々成長を実感

大塚 浩君(二部法)

中国語コース

上海大学<中国>

今回の留学で私は、新たな発見がたくさん出来ました。生活面では毎日が「小さなショック」「大きなショック」の連続でした。中国人は本当に自己主張が強いです。自分の意見を主張するのと同じくらい、他人の意見も求めてきます。異なる価値観、生活、文化、慣習に触れながら、見るもの、会うもの、感じるものすべてが新鮮。ちょっとしたことに一喜一憂しながら、中身の濃い充実した日々を過ごしました。この留学を通して私は人と人とのつながりや、助け合うことを学びました。自分が日々成長していることを手にとるように分かり、留学中に自分の将来の夢を見つけることも出来ました。それは日本と中国の架け橋になりたいということです。日本人も中国人も笑って語り合えるような幸せな光景が、両国に溢れている未来を想像しています。

現地でしか触れることの出来ない、素晴らしさがたくさんあると思います。皆さんも留学経験を通してその国の魅力に触れ、自分自身の成長を体感してみてください。



感動の合唱「オー・シャンゼリゼ」

木村 奈々子(文)

フランス語コース

トゥーレーヌ語学センター

<フランス>

このプログラムを通してフランスの文化、そして現在を体感することが出来ました。フランスに行く以前は、自分のフランス語の学力に不安を感じていましたが、学力に応じたクラスで学ぶことが出来ました。授業中「オー・シャンゼリゼ」の話をした時に先生が歌詞を教えて下さり、最後の授業では先生と一緒にフランス語で歌い、とても感動しました。

私のホストファミリーであるマダムには、母親のように優しくしていただきました。食器洗いの最中にグラスを割ってしまったとき、マダムが「コップは常に割れるもの。だから問題ないのよ」と言って下さったことは、今でも忘れられません。マダムとはフランスや日本についてよく話をし、会話の中には多くの発見がありました。

この1カ月は、二度と経験することの出来ない毎日でした。フランスでのさまざまな出会いを大切に、これからもフランス語を学び続けたいと思います。



心優しいホームステイ家に感謝

志谷 智佳子(経済)

スペイン語コース

バルセロナ大学<スペイン>

短期留学で一番心配だったのは、やはりスペイン語の語学力でした。先生の言っていることが分からなくてジェスチャーや状況判断しか頼りに出来なかったのを、昨日のように思い出します。ただ、先生方が一生懸命分かるように説明してくれたおかげで、徐々に理解することが出来るようになりました。最後の授業まで楽しく充実した勉強が出来たと思います。

ホームステイ先は、お母さんと私と同じ年の一人娘という家で、生活習慣の違う私たちに彼女達は家族のように接してくれました。毎日のように食事や学校のこと、お土産の買い物にさえ気を使ってくれました。

1か月終わるころには、娘さんの友達ともよく遊び、家族一緒にパエリアやトルティージャを作り、第二の家族が出来たと思いました。大学の先生方、ホームステイ先の家族、団結力のある専大の新しく出来た友達は、私にとって大切な存在となりました。

今までにない春休みを過ごすことが出来て、専修大学の学生でよかったと思う日々でした。

【ニュース専修2005年5月号12面】